

令和4年度決算に基づく「財政指標」を公表します

■健全化判断比率

項目	白石市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	赤字なし	13.37%	20.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	18.37%	30.0%
実質公債費比率	2.8%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	

健全財政に努めるワン!



今後、公施設の長寿命化・統廃合を検討しており、指標が上昇する可能性があることから、交付税措置のある地方債の活用や基金残高の確保などに努めていきます。

■資金不足比率(公営企業)

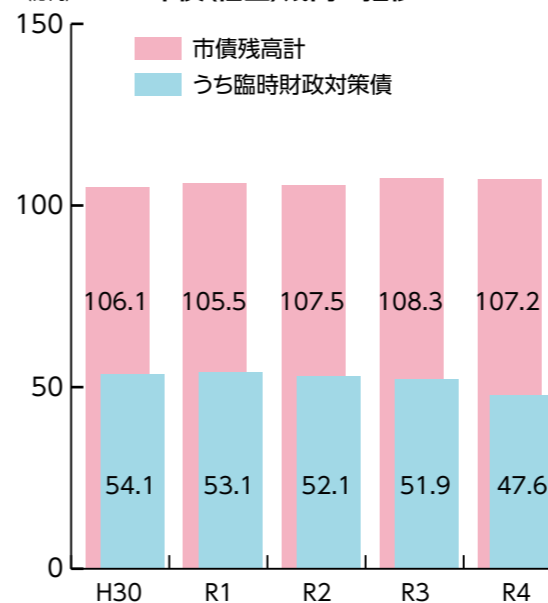
公営企業名	資金不足比率	経営健全化基準
水道	資金不足なし	20.0%
下水道	資金不足なし	20.0%

健全化判断比率指標はすべて「基準内」
地方自治体は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」(平成19年6月公布)の規定により、財政指標の公表が義務付けられており、地方公共団体の財政健全度を表す指標において「早期健全化基準」または「財政再生基準」を超えると、財政健全化計画を策定することが義務付けられています。
指標のうち、実質公債費比率は、上下水道事業や一部事務組合に対する繰出金(準元利償還金)の減少により低下しました。

決算用語メモ

形式収支	歳入決算額から歳出決算額を差し引いた額
実質収支	形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を除いた額
実質赤字比率	一般会計等の赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字と黒字を合算して、全体としての赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
実質公債費比率	市債(借金)の返済額およびこれに準じる額の大きさを表す指標で、資金繰りの程度を示すもの
将来負担比率	市債(借金)や将来支払っていく可能性のある負担金等の現時点での残高を表す指標で、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもの

市債(借金)残高の推移



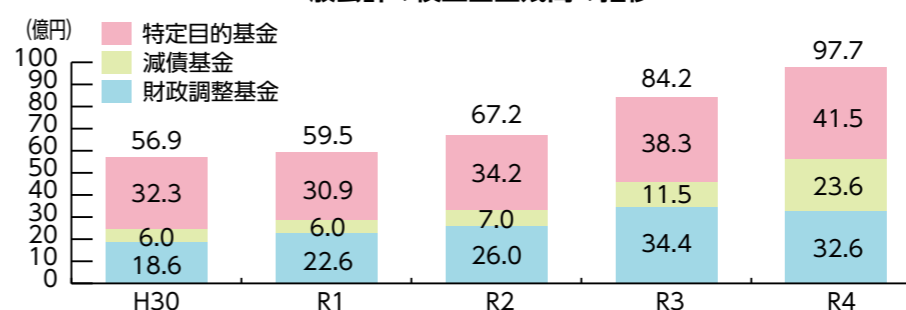
市債(借金)の残高は、約1億1千5百万円の減少
令和4年度末の一般会計市債(借金)の残高は、107億1,662万円となり、前年度末と比較すると1億1,553万円(1.1%)減少しました。
令和4年度は、地震や大雨に関連する災害復旧事業や中河原白石沖線街路事業、スマートインターチェンジ整備事業の財源として市債を借り入れたものや臨時財政対策債の借入により、借入れ総額は10億4,529万円となりました。
一方、これまで借り入れていた市債の返済金(償還元金)が、11億6,082万円であったため、市債残高は減少しました。
市債借入れの増加は、後の公債費(借金返済)増加につながるから、市債残高の抑制に努めるとともに、地方交付税措置がある地方債を有効に活用していきます。

■市債の状況

区分	令和3年度末残高	令和4年度借入	令和4年度元金返済	令和4年度末残高
一般会計	108億3,215万円	10億4,529万円	11億6,082万円	107億1,662万円
うち、臨時財政対策債	51億9,388万円	1億4,929万円	5億8,644万円	47億5,673万円

持続可能な財政運営のため基金を積み立て
令和4年度末の一般会計の積立基金(貯金)の残高は、97億6,442万円となり、前年度末と比較すると13億4,964万円(16.0%)の増加となりました。
令和4年度は、白石市外二町組合の解散に伴う繰上償還や今後の地方債償還に備えるため、減債基金に12億1,448万円を積み立てましたが、公立刈田総合病院への負担金等や災害復旧事業の増加などにより、財政調整基金から5億円を取り崩しました。
厳しい財政状況の中で、令和4年度決算では積立基金(貯金)の残高が増加しましたが、災害などの緊急的な事業に対応できるよう、また、将来に向けた持続可能な財政運営を進めるため、行財政改革に取り組み、財政の健全化を一層進め、施策の「選択と集中」を着実に実施し、財政調整基金をはじめとした基金残高の確保に努めます。

一般会計の積立基金残高の推移



■基金の状況

区分	令和3年度末残高	令和4年度積立	令和4年度取崩	令和4年度末残高
財政調整基金	34億3,555万円	3億2,143万円	5億円	32億5,698万円
減債基金	11億4,791万円	12億1,448万円	0円	23億6,239万円
その他特定目的基金	38億3,133万円	3億4,295万円	2,923万円	41億4,505万円
合計	84億1,479万円	18億7,886万円	5億2,923万円	97億6,442万円